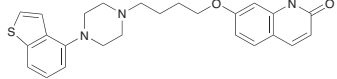
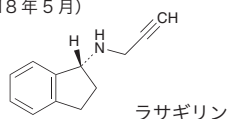
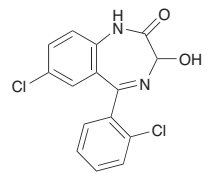


「新しい疾患薬理学」追加情報：2018年承認新薬

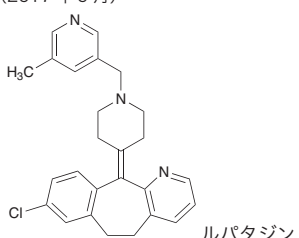
(一部 2016-2017 承認薬も収載)

(株)南江堂 2019.4

2章 A 精神科・神経内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物 【代表的な商品名】 (収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
統合失調症治療薬		
ドパミン D₂ 受容体部分刺激薬		
<p>●プレクスピプラゾール【レキサルティ】 (2018年4月)</p> 	<p>ドパミン D₂ 受容体及びセロトニン 5-HT_{1A} 受容体に対して部分アゴニスト作用を、セロトニン 5-HT_{2A} 受容体に対してはアンタゴニスト作用を有する</p> <p>プレクスピプラゾールは、アリピプラゾールのドパミン D₂ 受容体に対する作用に加え、セロトニン受容体に対する作用を機能的に強めた性質を有することから、セロトニン-ドパミン アクティビティ モジュレーター (Serotonin-Dopamine Activity Modulator : SDAM) と分類されることもある</p>	<p>アカシジアなどの錐体外路系症状、高プロラクチン血症、頭痛、不眠、重大なものに悪性症候群、遅発性ジスキネジア、麻痺性イレウスなど</p>
パーキンソン病治療薬		
モノアミン酸化酵素 (MAO-B) 阻害薬		
<p>●ラサギリンメシル酸塩【アジレクト】 (2018年5月)</p>  <p>ラサギリン</p>	<p>非可逆的かつ選択的な MAO-B 阻害作用を示し、線条体における細胞外ドパミン濃度を増加させる。ドパミン濃度の上昇により、ドパミン作動性運動機能障害を改善する</p>	<p>起立性低血圧、低血圧、傾眠、突発的睡眠、幻覚、衝動制御障害、セロトニン症候群、悪性症候群など。パーキンソン病患者では運動機能障害による転倒のリスクが高いので注意を要する</p>
抗てんかん薬		
ベンゾジアゼピン系薬		
<p>●ロラゼパム【ロラゼパム】 (2018年11月、静注製剤)</p>  <p>※抗不安薬として： 本文 p.131, p.135 参照</p>	<p>γ-アミノ酪酸 (GABA) A 受容体のベンゾジアゼピン結合部位に結合することで、GABA_A 受容体自体の構造を変化させ、その結果、抑制性神経伝達物質である GABA の親和性を増大して抗けいれん作用を発揮する。神経症における不安・緊張・抑うつならびに心身症における身体症候、不安・緊張・抑うつの効能・効果では 1977 年にロラゼパムの錠剤 (ワイバックス錠) が承認されているが、2018 年 9 月にてんかん重積症を効能・効果として承認された</p>	<p>呼吸抑制・無呼吸、心停止、昏睡、激越、錯乱、攻撃性など</p>

3章 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と治療薬

種類 薬物 【代表的な商品名】 (収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
抗アレルギー薬		
第二世代ヒスタミン H₁ 受容体遮断薬：非鎮静性ヒスタミン H₁ 受容体遮断薬		
<p>●ルパタジンフマル酸塩【ルパフィン】 (2017年9月)</p>  <p>ルパタジン</p>	<p>ヒスタミン H₁ 受容体を遮断することにより、ヒスタミンによる知覚神経刺激、血管拡張、血管透過性亢進、平滑筋収縮などを抑制する。抗コリン作用は弱い。肥満細胞などからの化学伝達物質遊離抑制作用を持つ。中枢抑制作用はほとんどないか弱い</p>	<p>眠気、口渇、倦怠感、肝障害</p>

種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
自己免疫疾患治療薬：免疫抑制薬（免疫抑制作用を主な作用機序とする抗リウマチ薬を含む）		
生物学的製剤		
●サリルマブ【ケザラ】 (2017年9月)	ヒト化抗ヒト IL-6 受容体モノクローナル抗体、IL-6 の作用を中和する	鼻咽頭炎、好中球減少症、注射部位紅斑、口内炎、感染症、腸管穿孔、間質性肺炎、肝障害
その他の免疫系に作用する薬物		
●バリシチニブ【オルミエント】 (2017年7月)	JAK（ヤヌスキナーゼ）選択的阻害薬、サイトカインの細胞内シグナル伝達を抑制する	感染症、LDL コレステロール上昇、消化器穿孔、好中球・リンパ球・ヘモグロビン減少、肝障害、間質性肺炎
全身性エリテマトーデス治療薬		
●ベリムマブ【ベンリスタ】 (2017年9月)	完全ヒト型抗 BLYS モノクローナル抗体、B細胞のアポトーシスを抑制し、形質細胞への分化を促進させる可溶性 B リンパ球刺激因子 (BLYs) に結合し、その活性を阻害する	感染症、過敏症、進行性多巣性白質脳症、間質性肺炎
骨粗鬆症治療薬		
ヒト化抗スクレロステチンモノクローナル抗体製剤		
●ロモズマブ【イベニティ】 (2019年1月)	スクレロステチンに結合し、骨芽細胞系細胞での古典的 Wnt シグナル伝達の抑制を阻害することで骨形成を促進し、骨吸収を抑制する	関節痛、注射部位疼痛、注射部位紅斑、鼻咽頭炎、低 Ca 血症、顎骨壊死・顎骨骨髓炎、大腿骨転子下および近位大腿骨骨幹部の非定型骨折

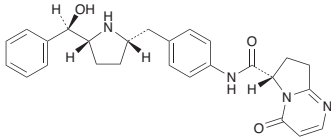
4 章 A 循環器内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
高血圧症治療薬		
降圧利尿薬		
●エサキセロン【ミネプロ】 (2019年1月)	腎尿細管でミネラルコルチコイド受容体へのアルドステロンの結合を選択的に阻害し、Na ⁺ 再吸収を抑制することで降圧作用を示す	高カリウム血症

4 章 B 血液・造血管内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
血友病治療薬		
第VIII因子製剤		
●ダモクトコグ アルファ ベゴル【ジビイ】 (2018年11月)	血液凝固第VII因子を補充し、出血傾向を改善する	ショック、アナフィラキシー様症状
第VIII因子機能代替製剤		
●エミズマブ【ヘムライブラ】 (2018年5月)	IgG 型の遺伝子組換えヒト二重特異性モノクローナル抗体である。第 IXa 因子と第 X 因子を結合し、両因子を架橋することにより第 VIII 因子の補因子機能を代替し、その下流の血液凝固反応を促進する。血液凝固第 VIII 因子に対するインヒビターを保有する先天性第 VIII 因子欠乏患者における出血傾向を抑制する	血栓塞栓症、血栓性微小血管症、注射部位反応
第IX因子製剤		
●ノナコグ ベータ ペゴル【レフィキシア】 (2018年8月)	血液凝固第IX因子を補充し、出血傾向を改善する	ショック、アナフィラキシー様症状、血栓塞栓症

5章 A 泌尿器内科領域の疾患に用いる薬物

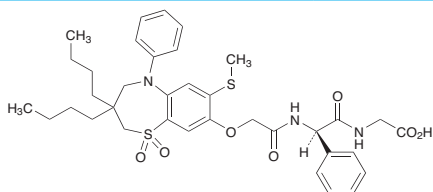
種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
過活動膀胱		
β₃ 刺激薬		
<ul style="list-style-type: none"> ●ピベグロン【ペオーバ】(2018年11月) 	β ₃ アドレナリン受容体を選択的に刺激して膀胱平滑筋を弛緩させる	尿閉、めまい、動悸

6章 A 呼吸器内科領域の疾患に用いる薬物

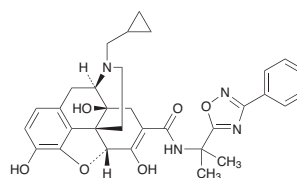
種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
COPD 治療薬		
生物学的製剤		
<ul style="list-style-type: none"> ●ベンラリズマブ【ファセンラ】(2018年4月) 	ヒト化抗 IL-5 受容体 α 抗体。抗体依存性細胞傷害活性を増強することにより、好酸球と好塩基球のアポトーシスを誘導	頭痛、咽頭炎、発熱、注射部位反応など

6章 B 消化器内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
炎症性腸疾患治療薬		
<ul style="list-style-type: none"> ●トファシチニブクエン酸塩【ゼルヤンツ】(2018年5月) 	JAK に結合し、STAT のリン酸化を抑制することにより、サイトカイン産生抑制	感染症、消化管穿孔、好中球減少、リンパ球減少、肝機能障害、黄疸など
<ul style="list-style-type: none"> ●ベドリズマブ【エンタビオ点滴静注】(2018年7月) 	α 4 β 7 インテグリンと特異的に結合し、腸粘膜へ移動する経路を阻害するヒト化モノクローナル抗体	重篤な感染症、進行性多巣性白質脳症など
瀉下薬		
<ul style="list-style-type: none"> ●エロピキシバット水和物【グーフイス】(2018年1月) 	胆汁酸トランスポーター (IBAT) を阻害	
<ul style="list-style-type: none"> ●リナクロチド【リンゼス】(2018年8月) 	グアニル酸シクラーゼ C 受容体アゴニスト。腸管分泌及び腸管輸送能促進作用並びに大腸痛 覚過敏改善作用	重度の下痢
<ul style="list-style-type: none"> ●ナルデメジントシル酸塩【サインプロイク】(2017年3月) 	末梢性オピオイド μ 受容体を遮断する (オピオイド鎮痛薬誘発性の便秘の改善)	下痢、腹痛、嘔吐、悪心、食欲減退、ALT 増加、AST 増加



エロピキシバット

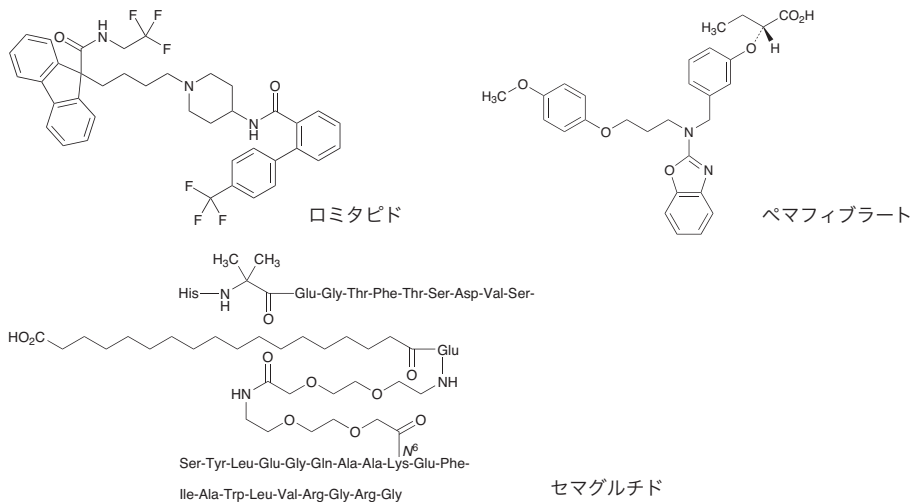


ナルデメジン

7章 A 糖尿病・代謝系内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
脂質異常症治療薬		
PCSK9 阻害薬		
<ul style="list-style-type: none"> ●エボロクマブ【レパーサ】(2016年4月) 	LDL 受容体分解促進タンパク質である PCSK9 が LDL 受容体に結合することを阻害し、LDL 受容体の分解を抑制することで、血中 LDL- コレステロールの肝細胞内への取り込みを促進する	糖尿病、注射部位反応
<ul style="list-style-type: none"> ●アリロクマブ【ブラレント】(2016年8月) 		

種類 薬物 [代表的な商品名] (収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
脂質異常症治療薬 (つづき)		
MTP 阻害薬		
●ロミタピドメシル酸塩 [ジャクスタピッド] (2016年8月)	小胞体内腔に存在するマイクロソームトリグリセリド転送タンパク質 (MTP) に直接結合して脂質転送を阻害し、VLDL 産生を抑制することにより LDL の合成を抑制する	肝機能障害
フィブレート系薬剤		
●ペマフィブラート [バルモディア] (2018年5月)	PPAR α の活性化による脂肪酸の β 酸化の促進、リポタンパクの代謝亢進 (LPL と HTGL の活性化) により、血中の TG を低下させる	横紋筋融解症, 肝障害
糖尿病治療薬		
GLP-1 受容体作動薬		
●セマグルチド [オゼンピック] (2018年3月承認)	膵 β 細胞膜上の GLP-1 受容体に結合することにより、血糖依存的にインスリン分泌促進作用とグルカゴン分泌抑制作用を発揮する	糖尿病用薬との併用で低血糖



8章 A 眼科領域の疾患に用いる薬物

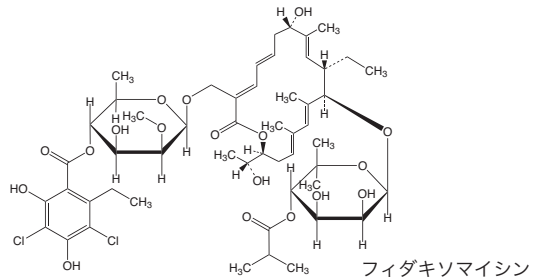
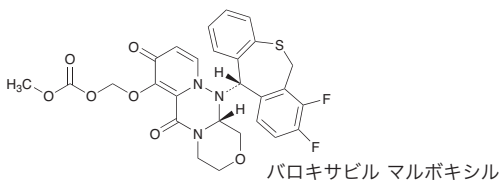
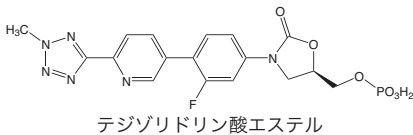
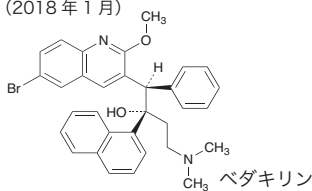
種類 薬物 [代表的な商品名] (収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
緑内障・高眼圧症治療薬		
●オメデネバグ イソプロピル [エイベリス] (2018年11月)	プロスタグランジン E ₂ 受容体のサブタイプの選択的 EP2 受容体作動薬、房水の排出促進作用による眼圧低下作用	嚢胞様黄斑浮腫を含む黄斑浮腫、結膜充血、角膜肥厚、虹彩炎、眼痛、羞明、眼の不快感 (刺激感等)、角膜上皮障害など

8章 C 皮膚科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
乾癬治療薬		
●グゼルクマブ【トテムフィア】 (2018年5月)	ヒト型抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体でヘルパーT細胞17(Th17)へのシグナル伝達を抑制	注射部位紅斑, 上気道感染, 白癬感染, 関節痛, 重篤な感染症, 重篤な過敏症, アナフィラキシー, 血管浮腫, 蕁麻疹, 発疹など
アトピー性皮膚炎治療薬		
●デュビルマブ【デュビセント】 (2018年4月)	ヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体でTh2型炎症を抑制	重篤な過敏症, 注射部位反応, 結膜炎, 単純ヘルペス, 眼瞼炎, 好酸球増加症, 頭痛, 発熱など

9章 A 感染症内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
タンパク質合成阻害薬		
●テジゾリドリン酸エステル 【シベクトロ】(2018年3月)	細菌リボソーム50Sサブユニットに結合し, タンパク質合成を阻害する	アナフィラキシー
核酸合成阻害薬		
●フィダキソマイシン【ダフクリア】 (2017年1月)	細菌のRNAポリメラーゼを阻害することにより抗菌活性を示す	アナフィラキシー, 悪心・嘔吐, 便秘
抗結核薬		
●ベダキリン (2018年1月)	結核菌のATP合成酵素を特異的に阻害し, 増殖期及び休眠期にある結核菌に対して殺菌的に作用する	QT延長が表れやすい, 肝機能障害
インフルエンザ治療薬		
●バロキサビルマルボキシル 【ゾフルーザ】(2018年2月)	インフルエンザウイルス由来のキャップ依存性エンドヌクレアーゼを阻害し, ウイルスのmRNA合成を阻害する。A型, B型インフルエンザウイルス感染症のいずれにも有効である	下痢, 悪心, 頭痛 因果関係は不明であるが, インフルエンザ罹患時にあらわれることのある異常行動(急に走り出す, 徘徊する等)に注意する

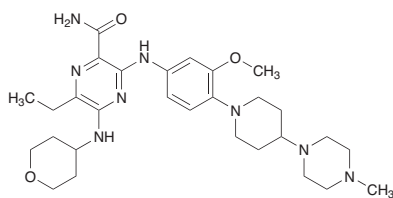


※スピラマイシンが2018年に承認されたことに伴い, 本文の記載を以下の通り更新します。

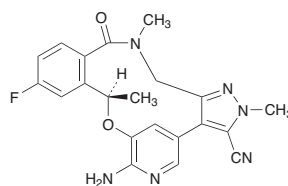
本文頁	更新前	更新後
p.525 2 トキソプラズマ症治療薬	スピラマイシンやピリメタミン, スルファジアジンなどが用いられるが, いずれも国内未承認となっている。ピリメタミン, スルファジアジンは「日本医療研究開発機構熱帯病治療薬研究班」から入手することができる。代替薬としてST合剤やアトバコンが用いられることがある。	スピラマイシンやピリメタミン, スルファジアジンなどが用いられる。スピラマイシン以外は国内未承認となっている。ピリメタミン, スルファジアジンは「日本医療研究開発機構熱帯病治療薬研究班」から入手することができる。
p.526表5行目	●スピラマイシン(申請中)	●スピラマイシン【スピラマイシン「サノフィ」】

9 章 B 腫瘍内科領域の疾患に用いる薬物

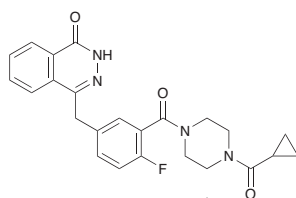
種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
抗体 (抗原標的薬)		
●イノツズマブ オゾガマイシン 【ベスボンサ】(2018年1月)	CD22 抗原に結合した後、細胞内に取り込まれ、オゾガマイシンを細胞内に放出されることで抗腫瘍効果を示す	肝障害、骨髄抑制、感染症、出血、Infusion reaction、腫瘍崩壊症候群、肺炎など
●オビヌツズマブ 【ガザイバ】 (2018年7月)	CD20 に結合し、ADCC 活性および ADCP 活性を誘導	Infusion reaction、腫瘍崩壊症候群、好中球減少、白血球減少、血小板減少、感染症、劇症肝炎、進行性多巣性白質脳症、心障害、消化管穿孔、間質性肺疾患など
●プリナツモマブ 【ビーリンサイト】 (2018年9月)	CD19 と CD3 の両方に結合する一本鎖抗体で、T 細胞を活性化することで、がん細胞を傷害する	神経学的事象、感染症、サイトカイン放出症候群、腫瘍崩壊症候群、骨髄抑制、肺炎など
抗体 (免疫チェックポイント阻害薬)		
●アテゾリズマブ 【テセントリク】 (2018年1月)	PD-1 とそのリガンドである PD-L1 との結合を阻害し、がん抗原特異的な T 細胞の増殖、活性化および細胞障害活性の増強により、腫瘍増殖を抑制	間質性肺疾患、大腸炎、下痢、甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害、1 型糖尿病、肝障害、腎障害、筋炎、横紋筋融解症、Infusion reaction など
小分子分子標的薬 (チロシンキナーゼ阻害薬)		
●ギルテリチニブ フマル酸塩 【ゾスバタ】(2018年9月)	FLT3、ALK、AXL などのチロシンキナーゼ活性を阻害	骨髄抑制、感染症、出血、QT 間隔延長、心膜炎、心不全、心嚢液貯留、肝障害、腎障害、消化管穿孔、間質性肺疾患、過敏症、可逆性後白質脳症症候群など
●ロルラチニブ 【ロープレナ】 (2018年9月)	ALK を阻害	間質性肺疾患、QT 間隔延長、中枢神経系障害、肺炎、肝障害など
その他の分子標的薬		
●オラパリブ 【リムパーザ】 (2018年1月)	DNA 一本鎖切断修復酵素である PARP を抑制することで DNA 修復を阻害	骨髄抑制、間質性肺疾患、悪心・嘔吐など
●アベマシクリブ 【ベジニオ】 (2018年9月)	CDK4 および CDK6 を阻害することで、腫瘍増殖を抑制	肝障害、下痢、骨髄抑制、間質性肺疾患など



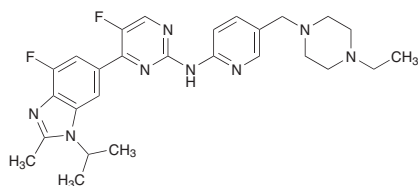
ギルテリチニブ



ロルラチニブ



オラパリブ



アベマシクリブ